

羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針(案)  
地区説明会の結果について（令和4年1月）

- 1 開催期間 令和4年1月17日（月）から令和4年1月31日（月）まで  
（全13回）
- 2 会 場 市内各小学校及びワークヒルズ羽生
- 3 内 容 ・【一部変更】羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する  
基本方針(案)についての説明  
・質疑応答
- 4 来場者数 延べ180人

## 5 開催状況

開催日	会 場	対 象	開始時刻	終了時刻	来場者数
1月17日(月)	井泉小学校体育館	井泉地区	18:00	19:00	18人
1月18日(火)	手子林小学校体育館	手子林地区	18:00	18:30	11人
1月19日(水)	村君小学校体育館	村君地区	18:00	18:30	22人
1月20日(木)	三田ヶ谷小学校体育館	三田ヶ谷地区	18:00	19:20	33人
1月21日(金)	川俣小学校体育館	川俣地区	18:00	18:30	15人
1月22日(土)	ワークヒルズ羽生大会議室	全地区対象	10:00	10:30	17人
1月24日(月)	須影小学校体育館	須影地区	18:00	18:30	4人
1月25日(火)	岩瀬小学校体育館	岩瀬地区	18:00	18:30	5人
1月26日(水)	新郷第一小学校体育館	新郷第一小学校区	18:00	18:40	14人
1月27日(木)	新郷第二小学校体育館	新郷第二小学校区	18:00	19:10	17人
1月28日(金)	羽生南小学校体育館	羽生南小学校区	18:00	19:20	6人
1月30日(日)	ワークヒルズ羽生大会議室	全地区対象	10:00	11:20	15人
1月31日(月)	羽生北小学校体育館	羽生北小学校区	18:00	18:30	3人
(来場者数 計)					180人

- 6 動画配信 説明動画(YouTube)の公開  
令和4年1月26日から2月28日まで  
再生回数1, 152回

## 7 質疑応答の内容

開催日	令和4年1月17日(月)	
会場	井泉小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	① 子どもたちのことを思ってやろうとしているのは理解した。スケジュールも分かったけれども、なぜ再編成が必要なのかというところが、納得できない、理解できないところがあるので、まずこういうことをやらなければならないというところをもう少し細かく伺いたい。	<p>(教育総務課長) 羽生市の児童生徒数が減ってきており、これからも減っていくことは間違いない状況となっている中で、小規模校で特色ある教育を進めることよりも、デメリットの方が増すことが予想される。義務教育の目的は、子どもたちに自立してもらうことであり、そのためには一定の集団の中で競争し、切磋琢磨しながら成長して欲しいため、一定の集団の学校を作る、よりよい環境で教育を行うことが必要と考え、この度の再編成の計画に至った。</p> <p>(学校教育課長) 人数が多ければ、多様な考えに触れることができ、認め合い、協力し合い切磋琢磨できる。思考力・表現力・判断力・問題解決能力など社会性や規範意識を身に付けることができる。</p> <p>学校行事も効果的に実施できる。運動会では、少人数であると半日で終わってしまうものを、一定の集団であれば1日かけて開催できる。多様性の中で子どもたち一人一人の活躍の場を設けることができる。</p> <p>また、児童生徒数に応じた人数の教員が配置されるため、経験年数や専門性、男女比等、バランスの取れた教員集団とすることができる。</p> <p>更にPTA活動などの活性化にもつながるのではないかと考えている。</p>
	② なぜ井泉小学校、三田ヶ谷小学校、村	(教育総務課長) 手子林小学校では、

	<p>君小学校の組み合わせにしたのか。例えば、手子林小と三田ヶ谷小、村君小と井泉小の組み合わせでもいいのではと思う。この案では、PTA活動でも、再編成する学校は、それに伴う協議や決定をしなければならず、単独校である手子林小学校は今までと変わらないことが納得できないということになる。</p> <p>手子林小学校の児童数は、井泉小学校と大きくは変わらないと思う。再編成をしないのは、校舎のキャパシティが足りないということか。</p>	<p>他の学校と再編成すると、現在の校舎に児童を収容できなくなる可能性がある。村君小学校と三田ヶ谷小学校の2校を再編成してもクラス替えができる規模にならない。そのような状況も考え、井泉小学校、三田ヶ谷小学校、村君小学校を再編成し、手子林小学校は現在もクラス替えができる規模であるので、単独校とする計画とした。</p>
2	<p>① 令和7年度の児童数は、村君小学校は25人、三田ヶ谷小学校は62人の見込みであり、早めに再編成して欲しいという方もいる。しかし、それぞれの地域に住んでいる住民の感覚としては、小学校が無くなってしまふと、学校を避難場所と考えていたものが、そうでなくなる。羽生市の公共施設は、小学校に限らず老朽化していて、施設を統合していこうという考えがある中で、避難場所としての施設の老朽化をどう考えているか。</p> <p>② 群馬県太田市が、スクールバスの送迎時間の空いている時間を利用して、巡回バスとして無料の市民サービスを行っている、羽生市では、そのような利用を考えているか。</p>	<p>(総務部長) 現在は多くの公共施設が避難所に指定されており、洪水や地震等災害の種類によって収容人数が違う。用途を廃止した学校施設については、校舎や体育館があるうちは、避難所として指定し続けようと考えている。また、有効な跡地利用の方法があれば利用したい。</p> <p>しかし、元々避難所は、全戸収容するという考えではない。イオンモールなど大規模な施設を利用する等、遠方避難も含めながら考えていかなければならないと思っている。</p> <p>(総務部長) 現在は、市内循環バス2台で4ルートを運行している。来年度の10月からデマンドバスを試験導入し、2年半の期間を経て、その後本格運行するか検討していく。令和7年度に小学校を再編成する案を示したが、ちょうど同じ時期にデマンドバスの試験導入期間を終えることになる。スクールバスの送迎時間外の利用は、それまでの間に検討していく。</p>
3	<p>① (1) 村君小学校、三田ヶ谷小学校と井泉小学校が再編成されるというの</p>	<p>(教育総務課長) 井泉小学校と村君小学校と三田ヶ谷小学校は、再編成</p>

	<p>は分かるが、なぜ学校名を変えなければならないのか。</p> <p>(2) 東中学校区の再編成を行うということであれば、手子林小学校の名前が残ることもおかしいことだと思う。中学校区内のすべての学校の名前を変えるという考えになるのではないか。</p> <p>(3) 手子林小学校の方は、学校名が残るから賛成という考えも出てくると思うが、急遽、学校名を変更するようになった時に、反対意見も起こる恐れがあると思う。その辺はどのように考えているのか。</p>	<p>して小中一貫校として新たに生まれ変わるものであり、井泉小学校への吸収合併ではない。新たな学校として学校名を検討することとしている。</p> <p>(教育総務課長) 手子林小学校の校名が残るかどうかはまだ決まっていない。基本方針(案)では、再編成により新しい校名とするが、単独校はこの限りではないとしている。</p> <p>(教育総務課長) 学校名については、今後意見を聞きながら考えていく。色々な意見の中で、反対もあると思うが、御理解いただけるような形で進めていきたい。</p>
	<p>② 今後アンケートを取ることがあると思うが、対象はどのようにするのか。</p>	<p>(教育総務課長) アンケートを実施するかについては、(仮称)再編成準備委員会で色々な事を検討し、多くの方の意見を伺う一つの方法としては考えられる。対象についても、準備委員会で相談しながら決めていきたい。</p>
4	<p>① 通学区域について、指定された学校よりも近い学校がある場合、通学する小学校を選択することはできるか。区域外通学の理由に、指定外の学校の方が明らかに近いという理由も入れていいのではないかと思う。</p>	<p>(教育総務課長) 指定外の学校に通うには、相当の理由が必要であり、原則、規則に基づいて区域外就学を認めていくことになる。再編成にあたっては、個別に相談をいただき、その都度対応をしていこうと考えている。</p>
	<p>② ホームページで、東中学校区の再編成の進捗を見ながら西・南中学校区の詳細を決定するという趣旨の記述があった。西・南中学校区は、東中学校区を参考にして再編成できると思うが、東中学校区の子どもたちに</p>	<p>(教育総務課長) 準備委員会では様々な立場の方に委員になっていただき、幅広い意見を聞いて、皆で話し合っ進めていく。羽生市にとって初めての小中一貫校、先駆けとなるので、再編成をして良かったと言っ</p>

	<p>としては、やり直しがきかない。色々な立場の、それぞれの目線の意見を取り入れて進めていただきたい。</p>	<p>ていただけるよう、子どもたちのために良い学校を作っていきたい。</p>
	<p>③ 小中一貫校として井泉小学校の校舎を使うということだが、中学校の部活動ではテニスコートや野球のグラウンドなどが必要になる。井泉小学校でどのように行うのか。</p>	<p>(教育総務課長) 小中一貫校については、施設分離型の形態をとる。中学校の部活動はこれまで通り東中学校のグラウンドを使う。小学校のグラウンドを使うことはない。</p>
5	<p>① (1) 小学校3校の再編成は、統合なのか、併合なのか。</p> <p>手子林小学校は名前が変わらなるとなると、適正規模・適正配置と言うには、違和感がある。</p> <p>中一ギャップの解消の話があったが、小中一貫校になると小学校の卒業式は無くなるのか。</p> <p>(2) 小中一貫校というのは、9年間の教育課程になると考えるが、6年生で卒業式があるなら、今までと変わらないのではないかと。中一ギャップの解消の意味が矛盾しているのではないかと思う。ならば併合とするのが適切ではないか。</p>	<p>(教育総務課長) 小学校6年生で卒業式は行う。</p> <p>(学校教育課長) 小中一貫校というと、小学生から中学生まで同じ施設で教育活動を行うイメージをもたれていると思う。しかし、現在の羽生市の学校施設の規模を考慮すると、施設分離型の小中一貫校として進めたいというものである。</p> <p>小学校、中学校は別々となるが、目指す教育像などは小中9年間を通して考えていく。小学校を卒業し、さらに継続した教育課程を編成しながら中学校へ進学し、9年間を一貫する形態である。例えば、中学校の先生が小学校へ行って交流したり、小学校の先生が中学校へ行って卒業した子どもたちを見守ったりすることによって、中学校進学後に心が不安定になり学校が嫌になってしまう「中1ギャップ」を解消できるという考え方である。</p>
6	<p>① (1) 適正規模として、一定の集団規</p>	<p>(教育総務課長) クラス替えができ</p>

	<p>模を確保するとあるが、集団規模というのはどのくらいの人数と考えているか。</p> <p>(2) 1 学級の人数は何人くらいと考えているのか。</p> <p>(3) 2 学級以上とすることと、1 クラス 20 人から 35 人とするもののどちらが優先なのか。</p>	<p>る集団規模が必要と考えている。</p> <p>(教育総務課長) おおむね 20 人以上と考えている。また、小学校の 1 クラスの人数は 35 人までとなっている。</p> <p>(学校教育課長) 学校規模の標準が法律で定められており、小学校は 1 学年で 2 学級以上、全学年で 12 学級以上が望ましく、中学校は全学年で 9 学級以上が望ましいとされている。それを適正な規模と考え、市内の学校を再編成したいということである。</p> <p>小学校では 1 学年 70 人前後、2 学級で 35 人ずつを想定している。</p>
<p>②</p>	<p>(1) 施設を廃止し財政負担を軽減するとあるが、今どのくらい費用がかかっている、今後の計画でどれくらい軽減されるのかというビジョンがあるか。</p> <p>(2) 金額がどうこうという話ではなく、削減するということについてのビジョンはどのようになっているのかを聞きたい。</p>	<p>(教育総務課長) 学校規模によって違うので一概には言えないが、概算で、小規模校で年間 1 千万程度の経費がかかっている。これは、市が雇用している職員の人件費や施設維持費、修繕工事費、光熱費等であり、県が費用負担する先生の人件費は含まれていない。学校数が 1 校減れば、年間 1 千万円程度が減るということであり、この分を再編成した学校に投資することができると考えている。</p> <p>(財政課長) 新たな学校で必要となるスクールバスなどの費用は、新たな投資ということになる。</p> <p>(財政課長) 例えば、今まで財政投資をしてきた小学校が 11 校から 10 校になった場合、1 校分の経費が少なくなる。残っている学校に手厚く投資ができるということになる。学校数</p>

		が適正化されることによって、今まで修理ができなかった施設に対して適切な修繕ができるという視点で、財政部局としては再編成を捉えている。
--	--	--

開催日	令和4年1月18日(火)	
会場	手子林小学校体育館	
	質 疑	応 答
	質疑応答なし。	

開催日	令和4年1月19日(水)	
会場	村君小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>通学距離が長い児童はスクールバスを利用し、通学距離が短い人はバスを利用しないという理解でよろしいか。バスの利用は基準に従わなければならないのか。例えば、バス通学となる距離だが、徒歩で通学したいという場合はどうか。</p>	<p>(教育総務課長) スクールバスは、自宅が学校から何キロ以上遠い場合に乗車するという設定が考えられるが、その距離等は準備委員会の中で話し合っていて決めていくことになる。バス利用の基準に従わなければならないかについては、保護者の意向ということであれば、個別に検討することになると考える。</p>
2	<p>(1) 村君地区では、既に第2保育所が休園となっている。空き家になって管理が行き届かず、見かねた地域の方がボランティアで草刈りをしている。そのような状況を考えると、学校跡地をどうするかの検討をして欲しい。再編成だけを最優先にして、小学校が保育所の二の舞になっては困る。</p> <p>(2) 地元の方が管理していくにも、子どもが少なくて小学校が無くなるくらいであるから、高齢の方が多く、難しくなっている。再編成までに前向きに検討をしていただきたい</p>	<p>(総務部長) 保育所については、地元の方々の御協力に感謝している。小学校については、災害時の避難所となっている。建物が存在するうちは、避難所として利用するという考えである。その後は、利用することが無くなれば、処分をしていくことを前提にしているが、まだ結論は出ていない。</p> <p>(総務部長) 一つずつ前向きに検討していきたい。</p>

い。	
----	--

開催日	令和4年1月20日(木)	
会場	三田ヶ谷小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>① ・三田ヶ谷小は少人数でいじめも少ないと思う。</p> <p>・羽生市は非常に住みやすい土地だと思う。</p> <p>・過疎化している地域が市内に点在している。</p> <p>・羽生市の場合、市街化調整区域があり、そこから人が減っていく。</p> <p>・三田ヶ谷地区や村君地区、新郷地区は調整区域なので、以前から人口減少が進んでいる。小学校が無くなったら、更に高齢化が進み、人が減っていく。</p> <p>今後高齢化が進むことは間違いない。そういった時に市として何か対応していただけるのか。過疎化対策を講じた後で、再編成を考えていたきたい。</p>	<p>(企画財務部長) 御意見のとおり、羽生市全体から見ても、三田ヶ谷地区は人口減少傾向にある。この地域に住宅を構える上では、都市計画法という法律上の規制があり、市街化調整区域、農地を守っていかなければならないという土地利用の規制があって、人口が減少し、また、空き家も増えてきている。</p> <p>そういった中で、羽生市としてどのような取組をしているかをお話する。まず、空き家を活用して移住してもらうための「空き家バンク」がある。地域で空き家が増えてきているという状況があれば、うまく活用して人口を増やしていくこともあり得るかと思う。一方、羽生市に住んでいくということを考えた時に、特に若い世代に大事なところは、働く場所があるのか、住宅が建てられるのかということだと思っている。現在は、主に岩瀬土地区画整理事業の区域内に企業の誘致、住宅地の開発を進めている。若い世代にとっては、利便性の良いことが重要であり、商業施設の誘致なども力を入れている。そのような魅力をひとつひとつ積み重ねながら、その影響を岩瀬地区だけでなく周辺の地域に波及していければ良いと考えており、羽生市に住みたいと思ってもらえるような対策をしている。我々は情報発信しながら努力して進めているが、まだ、人口</p>



		<p>が増加するところまでは成果が現れていないという現状である。</p> <p>全国的な流れから、人口減少、出生率の低下は避けられず、羽生市だけ人口が増加するという事は、難しいと思う。しかし、人口が減少していく中で、羽生市としてどのように発展していくのか、財政的な面も取り上げているが、今の子どもたちが将来大人になった時の羽生市の状況を踏まえながら、また、子どもたちの教育の質を維持していくために何が望ましいのかという視点で現在考えているところである。その方策の一つが、学校の適正規模・適正配置である。</p> <p>人口減少への対策については、ひとりでも多く羽生市に住んでいただくため、羽生市の魅力の情報発信を含め、しっかり進めていくことを御理解いただきたい。</p>
②	<p>防災について、最近の異常気象と数年前の洪水があった。三田ヶ谷地区、村君地区は利根川が近く、そして土地が低い。小学校が無くなった場合どこに避難すればいいのか。財政面のこともあり、廃校になった施設をどうするか、まだ決まっていないと思うが、残してもらわないと我々は逃げる場所を失ってしまう。</p>	<p>(地域振興課長) 大きな体育館や、教室も広く階数もあり、しっかりした校舎は避難所として最適である。再編成によって学校ではなくなっても、すぐ取り壊されるわけではなく、引き続き指定避難所として使っていきたいと考えている。万が一、建物が無くなる時には、自治会や住民の皆様、関係団体の皆様などと、今後どうしたら良いか話し合いながら、進めて行かなければならないと思っている。令和元年10月の台風を受け、地域振興課としても色々な課題を抱えている。</p> <p>小中学校や公民館など羽生市では30か所以上の公共施設を避難所としている。それだけではなく、県立の高</p>

		<p>等学校も 5 か所あり、避難所として指定するため、協定を結んでいる。また、ルートイン羽生を含む旅館業団体と、昨年新たに協定を結んで避難所として使えるようにした。イオンモール羽生の屋上駐車場の使用についても同様である。さらに、避難者の移動について民間バス会社 5 社とも協定を結ぶ等、様々な対策を進めてところである。今後も防災については、地元自治会、住民の皆様、関係団体と協議を重ねながら、安全安心のまちづくりを進めていきたいので、今後とも御協力をお願いします。</p>
<p>③</p>	<p>スクールバスについて、子どもたちが何キロも歩いて通学することは防犯上望ましくない。そのためにスクールバスを導入することは悪い事ではない。しかし、医学的な事から考えると、歩いて通学することはとても大事なことである。最近、子どもたちが昔に比べると転びやすくなり、体幹が弱くなっていると言われている。集団で毎日歩いて通うことは、とても重要なことなのではないかと思う。高齢の方は毎日歩いた方が認知機能が落ちず、認知症になりづらい。子どもにとっても歩くことによって脳の働きが促進すると言われており、学力に対しても影響が出てくるのではないか。骨粗鬆症になるなど、歩かないことによって生じる悪影響も出てくると思う。</p> <p>また、通学中におじいちゃん、おばあちゃんに会って挨拶をして、といったものが無くなってしまうと、寂しいと思う。</p> <p>特に三田ヶ谷地区は地域で子ども</p>	<p>(教育総務課長) スクールバスが運行されたとしても、停留所までは歩いていく形になる。また、学校で体力づくり活動を充実させるという取組も必要と考えている。他市のスクールバスの運行事例も参考にしながら、体力活動の充実等を検討していくことになると考えている。</p> <p>また、バスに乗ることにより子どもたちの顔を見られなくなるという心配もあるとのことであるが、スクールバスが運行した場合でも、停留所までの間、保護者や地域の皆様の見守り活動に御協力いただくことも含めて、スクールバスの運行について検討していきたい。</p>

	<p>たちを育てるという気持ちが強い。再編成には断固反対であり、時期尚早だと思う。</p>	
2	<p>自分の子どもは現在2年生で、6年生になる前に学校が無くなってしまふ。そうなると思っていなかったのが非常に残念であり、再編成には断固反対である。2年生以下の在校生に三田ヶ谷小で卒業させてあげられないのは、どうにかならないものか。もし、学校が無くなるというのが分かっているならば入学させないという人も、三田ヶ谷に戻るのをやめる人もいるかもしれない。自分が小学生だった頃から、三田ヶ谷は1学年1クラスだった。少人数より大人数の方が良いと言っているが、自分はそうは思っておらず、あえて三田ヶ谷に家を建て、少人数のところの子育てをしたいと思っている。</p> <p>村君小の児童数が少なくなることも分かるが、三田ヶ谷小の人数だけを考えたら、あまり変わらない。他の地区にはイオンモールなどがあると言っていたけれど、三田ヶ谷には三田ヶ谷小学校しかない。他の方は分からないと思うが、自分は反対である。</p>	<p>(教育総務課長) 三田ヶ谷小学校が無くなってしまふのは、非常に寂しく残念だという気持ちはよく分かる。しかしながら、やはり三田ヶ谷小学校も児童数は減少傾向にあり、基本方針(案)の本編6ページでも、6年後には50人台になってしまうという推計である。小規模校も良い所はもちろんあるのだが、これ以上児童数が減少してしまうと、良い部分を生かすのにも限度がある。子どもたちのことを考えれば、ある程度の規模の中で学び、成長して欲しいという願いがあり、このような案を作った。羽生市としては、皆さんと協力して、再編成をして生まれかわる学校で、より良い教育をできるよう、誇れるような学校づくりをしていきたい。再編成して良かった、良い学校だと言われるように再編成を計画したので、御理解をいただければと思う。</p>
3	<p>以前、三田ヶ谷小学校でPTA会長を務め、学校にはお世話になっており、特別な思いであるが、いつ統合してもおかしくないと思っている。当初は自分も学校が無くなるというのはとても悲しい思いでいた。今日、この集まりに参加している皆さんは、少なからず自分の子どもたちのことを思って集まってくさっていると思う。短時間で感じていただくこと</p>	<p>(教育総務課長) 羽生市としても、やはり地域と共にある学校づくりということで、皆様と共に良い学校にしていきたいと思う。どんな御意見でも良いので教えていただければと思う。</p> <p>(学校教育課長) 子どもたちの人数が多くなることで、どのようなメリットがあるかということをお話しさ</p>

は難しいと思うが、これは、あくまでも案ということで、学校をどのように運営していくかということ、子どもたちの教育をどのように受けさせていけばいいのかを真剣に考えていただきたい。反対賛成はその先の部分であるので、再編成されるとなった場合に、自分の子どもがどのような形で教育を受けられるのか、スクールバスはこんな順序で回って欲しいとか、再編成準備委員会に自分が入って行って意見を言ったり、その中で最終的なジャッジをしてもらってもいいのではないかと思う。

自分の意見として賛成反対はないが、市からの提案を改めて考えていただき、どのような意見でも良いので、こうして欲しいという意見をどんどん言っていただかないと前に進まない。皆さんの意見でより良い方向に進んでいければと思う。

せていただく。ある一定規模の集団であると、その中で多様な考え方に触れたり、高め合ったり、協力し合ったり、切磋琢磨することで、色々な能力を培うことができる。クラス替えができる人数を確保できることによって、児童生徒の人間関係の固定化や、序列化を防ぐことができる。また、学校行事等を効果的に実施できると考えている。さらに、児童生徒の数が多くなることによって、教員の人数も確保することができる。三田ヶ谷小学校の先生方は本当に一生懸命やっけていただいております、児童が健やかに成長している学校である。しかしながら、教員の人数を確保できるということで、経験年数や専門分野、男女の比率などについても、ある一定のバランスの取れた教職集団となると考えている。保護者の人数も増えることにより、PTA 活動等の役員の仕事も分担できるのではと思っています。

三田ヶ谷小学校が無くなるということについて、自身の成長してきた過程を考えると悲しくなる気持ちはとてもよく分かる。個人的な話で大変申し訳ないが、自分が育った小学校が今年の3月いっぱい無くなる。現在は児童が20人くらいしかおらず、かつて統廃合の案があったが、人数の多い学校に吸収される話だった。その話が出たのは20年前である。当時は100人近くの子どもたちがいて、地域は大反対をした。今の現役の保護者の多くが、今から振り返ると、あの時に舵取りをしておいた方が、良かったと思っている。

		子どもたちにより良い教育環境を と考える時に、大人たちがどのよう な教育環境を整えてあげることが一 番良いのかを考えて行く視点も大事 なのかなと感じている。	
4	①	<p>この再編成の話が出たのは2020年 だったと思うが、非常に驚きが大き かった。自分の子どもにその話をし た時に、小学校入学前だったので、 「そうなんだ。」と言っていた。2021 年4月に入学して、半年くらい経過 した時に、また同じ質問を投げかけ たところ、「嫌だ。」と言った。今の友 達とずっと一緒のクラスでやってい きたいと、本当にクラスに愛着をも って過ごしている。再編成の案では、 三田ヶ谷小は令和7年4月に廃校予 定となるが、もし仮に、この話が進ん で行った時に、メリットとしては切 磋琢磨して人間力が磨かれるという 部分があると思うが、三田ヶ谷小や 村君小の児童が、井泉小の大人数の 中に吸収された時に、精神的な面で マイナスの部分が出てきてしまうの ではないかと率直に心配している。 もし、不登校になったり、学校に行き たくないという気持ちになった場 合、市としてはどのような対応をし ていただけるのか、この場ですぐお 答えいただけるのであれば伺いた い。今、心のケアというものを一つ話 したが、時期尚早なのではないかと 思う。もっと地域や保護者と市が話 し合って進んでいくことはできない のか。令和7年度に再編成します、と いうことではなくて、地域や保護者、 皆が納得してその後でも良いのでは ないかと思う。</p>	<p>(教育総務課長) 再編成による精神 面での影響というデメリットがある ということについては、小規模校出 身の子どもたちに配慮するため、元 の小学校の先生を新しい学校に配置 したり、再編成する前から交流学习 をしたりといった対策を考えてい る。現在も村君小と三田ヶ谷小で交 流をしていると思うが、そういった ものを、再編成する前から積極的に 実施して、将来一緒に学べるような 活動をすることを検討している。そ れでも心配であったり、心のケアが 必要だという時には、カウンセラー の教育相談やアンケートなどで意見 を聞きながらケアをしていくことが 考えられる。</p> <p>もっと話し合いが必要ということ については、準備委員会の中で地域 の方、保護者など多くの方と話し合 いをしながら、一緒に新しい学校を 作っていきたいという思いがある。</p>

② 小中一貫校ということで、名前を聞くと画期的な取組とを感じるが、どのような例があるのか。再編成を進めて行くにあたって、今現在 1 クラスの想定人数はどれくらいなのか伺いたい。切磋琢磨という言葉があるが、個人の意見としては、同程度の能力の子ども同士で生まれるものと思っている。ならば、他の自治体でも進めていると思うが、習熟度別のクラス編成といったものは可能なのか、教科担任制など可能なのか教えていただきたい。

(学校教育課長) 本基本方針(案)で示している小中一貫校については、施設分離型の小中一貫校という形態である。私立学校など同じ施設で9年間学ぶという形態もあるが、現在の羽生市の施設を考えた時に、小学生と中学生が1つの施設の中で学習することは困難と考えており、施設は分離しているけれども、9年間の学びを継続させるイメージで考えていただければと思う。中学校の先生が小学校で授業をしたり、小学校の先生が中学校でどのような学びをしているのかを見に行ったり、ということを進んでいきたい。また、施設は違うが、小学校と中学校との交流を活発にすることによって、中一ギャップの解消にも繋げていきたいと考えている。

クラスの数については、井泉小と村君小、三田ヶ谷小とが令和7年に再編成した時には、全校児童は400人程度と想定している。1クラスあたり30人から35人と考えられる。

習熟度別の学習であるが、これが適正規模の一番のメリットと考えられる。先生の配置もより多くできることにより、習熟度別のクラス形態で学習することも可能になってくる。

また、不登校などの不安については、教職員の人事についても、子どもたちの不安を軽減できるよう、三田ヶ谷小学校の先生が井泉小学校に転任するなど、子どもたちと一緒に異動するようなことも今から計画しているので、そのようなことも御理解いただければと思う。

5	<p>保護者もそうであるが、我々地域住民としても、三田ヶ谷の子どもたちのことを考えると、令和 7 年度に再編成となった場合に、事前の準備期間として、人事交流などが大切なのかなと思う。先ほど保護者の皆さんから話が出たが、精神的、メンタル的なものは、高学年になるほど自我が出てくるため、きめ細かいケアが大切だと思う。また、地域の防災を考えると、この小学校が避難所となっているため、その後の利活用という面から見ても、将来的に安心できるようにしていただきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 将来的な利活用については、色々と心配なこともあると思うが、皆さんと共に話し合い、こういった形が一番良いか、知恵を出し合いながら考えていければと思う。</p>
---	--	--

開催日	令和 4 年 1 月 21 日(金)	
会 場	川俣小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>今回、計画が見直しになった背景について教えていただきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 当初の案では、南中学校区と西中学校は令和 10 年に小学校の再編成を計画した。川俣小学校は羽生北小学校、新郷第一小学校は岩瀬小学校と、新郷第二小学校は須影小学校とそれぞれ再編成する。岩瀬小学校は現在、西中学校と南中学校に分かれてしまうが、全員が南中に通う、新郷第一小学校は南中学校区に変更するという案であった。これについて、令和 3 年 4 月に説明会、7 月に保護者アンケートを行ったところ、通学区が変わることにより通学距離が遠くなるなど、反対意見が多数あった。反対が多い中で強引に進めることはできないということで、羽生市立適正規模審議会でも再度検討し、西中学校区、南中学校区については、一度白紙に戻して令和 6 年度末までに再編成の方針を決めてい</p>

		くことになった。
2	<p>将来的に川俣小学校が無くなるのは残念である。これは時代の流れで、確かに児童数が少なければ少ないなりの学校のあり方があると思うが、多人数でないとできない活動というのは、確かに見ていて歯がゆいものがある。</p> <p>学校の再編成とは直接的には関係ないが、本川俣に東武鉄道の操車場ができる予定だったが、乗降客がだいぶ少なくなったからか、その話は立ち消えになった。個人的な意見であるが、例えばそこに住宅地をつくれれば、小学生の数も増えるのではないかと思った。市としても東武鉄道と交渉して、将来的に人口誘致ができるかどうかということの検討をお願いできればと思う。</p>	<p>(総務部長) 車両基地をつくるという話は聞いていたが、東武鉄道が解消して現在に至っている。この計画が無くなったということで、今後もそのままにしたいとはないと東武鉄道でも考えているようだが、具体的な話は聞こえてこないのが現状である。その後まったく情報が入っていないのだが、住宅地の開発などは検討材料の一つになっているのではと思っている。当初、車両基地ができることによる市の発展を期待していたが、今はそれ以上の情報はない。</p>

開催日	令和4年1月22日(土)	
会場	ワークヒルズ羽生大会議室	
	質 疑	応 答
1	<p>(1) 「なぜ学校編成が必要か」について、小規模だとクラス替えができない、多様性を深めることができないということであるが、一方で小中一貫校を作るということで、それが逆に固定化だと思ってしまった。それは、人数構成比の話で、小規模は多様性を妨げると言いながら、小中一貫校ですっと同じメンバーで9年間過ごすということのバランスは、どのように考えているのか伺いたい。</p> <p>(2) 9年間一貫してできることがあるというメリットは分かったが、9年</p>	<p>(教育総務課長) 少ない人数だと人間関係の固定化などが心配であるので、クラス替えができる規模に再編成をしていくこととしている。小中一貫教育については、9年間の連続性を重視したカリキュラムを作ること、中1ギャップが無くなるなどのメリットがある。9年間の中で、常にクラス替えができるので、固定化を防ぎながら切磋琢磨できる環境を9年間続けていくという意味である。</p> <p>(教育総務課長) その通りである。</p>



	<p>間ずっと同じ編成でということは、多様性という意味が薄れていくのかなと思う。(中学校で) 2つの小学校が1校になるという方が色々な文化が混じり合って多様性が生まれるのかなと思う。9年間一貫することを否定することではなく、多様性と謳っておきながら、それに矛盾する9年間があるのかなと思ったからである。</p> <p>先ほどの説明は、9年間の間でクラス替えをできるという条件のもとに9年間を考えているとのことだったので、そこがいわゆる多様性を継続させるところ、クラス替えができることが条件なのか。クラス替えができなくなったら多様性というメリットが達成できなくなるということで、再編成を考えていると理解したのだが、合っているか。</p>	
2	<p>① 前回の地区説明会、保護者アンケートの実施結果を受け、西中学校区、南中学校区の計画を白紙に戻し、審議会で改めて検討するとのことであったが、今回の結論は大変良かったと思う。今後また、新たな審議会を立ち上げて検討し直す際は、色々と議論していただき、羽生市以外の他の市で、児童生徒が減っていく中で、既に義務教育学校や小中一貫校を実施しているところがあると思うので、そのような所の事例等を情報として取り入れて、今後の審議の参考にして進めていただきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 他市の事例をしっかり把握して、市民の皆様に情報提供しながら、御意見をうかがいながら進めて参りたい。</p>

開催日	令和4年1月24日(月)
-----	--------------

会 場	須影小学校体育館	
	質 疑	応 答
	質疑応答なし。	

開催日	令和4年1月25日(火)	
会 場	岩瀬小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>(1) 西中学校区、南中学校区については、当初の案を白紙に戻して再検討とのことだが、白紙に戻す経緯が我々には伝わってきていないので、話せる範囲でお聞かせいただきたい。</p> <p>(2) 新郷地区から反対意見が出たということであるが、今後の検討については、そのような反対意見を取り入れながら検討していくことになるか。</p>	<p>(教育総務課長) 当初の案について、令和3年4月に地区説明会、7月に保護者アンケートを実施したところ、反対の意見が多くあった。特に、新郷地区で反対意見が多かった。保護者アンケートでも、新郷地区では6割近い方が反対の状況であった。新郷第一小学校の中学校区を、西中学校から南中学校に変えたこと、地域から学校が無くなってしまうことなど、多くのご意見をいただいた。そのような状況にあって、当初の案のとおり進めるのは難しいため、再検討する必要があるということで、審議会でもこの状況では一度白紙に戻しましょうということになり、今回一部変更を示したという経緯である。</p> <p>(教育総務課長) 今後は、ゼロベースで検討していくが、もちろん新郷地区からの意見もあるのだが、岩瀬地区や須影地区、羽生地区、川俣地区それぞれから色々な意見を伺い、新たな審議会を立ち上げてどのような形が良いかということ、西、南中学校区全体で考え、検討していく。</p>
2	① (1) 検討、検討と言っているが、どの地区も反対ならば、いつまでも検討が続くのか。子どもに伝えられないので期限を決めていただきたい。	(教育総務課長) 再検討は、令和6年度末までに結論を出したい。

	<p>(2) もしそこで反対があった場合は、どうするのか。</p> <p>(3) 令和6年まで待つ必要はないのでは。</p> <p>(4) 令和6年の時点で、反対が多くても決行するということか。</p>	<p>(教育総務課長) 市としては、再編成が必要と考えているので、まとまらないこともあるかもしれないが、令和6年度までに進めて行きたい。</p> <p>(教育総務課長) もちろん、その前までに形が整えば、その時点で方針が決まることも考えられる。期限を令和6年度末までとするものである。</p> <p>(教育総務課長) 再編成の必要性を丁寧に説明して、御理解をいただけるように進めて行きたいと考えている。</p>
--	---	---

開催日	令和4年1月26日(水)	
会場	新郷第一小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>将来は義務教育学校を設置することを掲げているが、いつごろからか。また、学校再編成の効果について、学校市設を集約することにより削減できる費用はどのくらいなのか。本当に将来的にそうなるのかという疑問がある。建築後30年以上経過している学校施設が多いと書かれている。19年後とあるが(適正規模・適正配置計画のイメージ図)、50年も経過した施設は維持できるのか。</p>	<p>(教育総務課長) 義務教育学校の設置時期については、具体的には決まっていない。今後の児童生徒数の推移を踏まえて決めて行く。将来的に義務教育学校を設置するという事である。</p> <p>義務教育学校を設置するまでの過程で、小学校の再編成を行っていくことになる。再編成をしていく中で、残った施設に予算を集約することができるので、大規模改修工事を実施して維持していく。今後全ての学校を残していくと、学校ごとに多くの経費がかかってしまう状況になる。最終的に現在の中学校3校の校舎が、いずれ建て替えなければならない時期が来るので、義務教育学校の設置すべき時期の目安と考えている。</p>
2	① 令和4年度に審議会を立ち上げて令和6年度までに検討するというこ	(教育総務課長) 審議会での検討の進捗状況については、引き続き公開

	<p>とだが、審議の途中経過を知らせしていただければありがたい。</p> <p>小中一貫校から義務教育学校になるということだが、できれば小学校、中学校がスムーズに義務教育学校に移れるようにして欲しい。施設が別々の小中一貫校とのことだが、できれば1つの9年間という学校（施設一体型の）の方が良い。（施設分離型の場合、）進捗が学校によって違うと思うので、その辺りがスムーズになるようにして欲しい。こちらの中学校では学んで、こちらの中学校では学んでなかったというものが無くなるようにお願いしたい。</p>	<p>していく。義務教育学校への移行については、子どもたちのために行っていくことであるから、極力スムーズにできるようにしていく。</p>
②	<p>スクールバスを運行することだが、できれば、小学校は歩いて通学できる方が良い。新郷第一小学校では、現在の学区だけだと児童数は少なくなるが、小須賀、上岩瀬などに学区を広げ、財政の問題もあると思うが、新郷第一小学校をできれば残していただきたい。122号沿いが栄えてきているので、そのうち岩瀬小学校に児童が入りきれなくなるのではないか。新郷第一小と岩瀬小の施設規模はあまり変わらないので、その辺りも検討して欲しい。</p>	<p>（教育総務課長）スクールバスの運行のこと、歩いて通える距離や通える範囲、岩瀬地区での児童数の増加など、色々な状況があるので、そのようなことも全部含めて御意見を伺いながら、ゼロベースから進めて行くので、引き続き御理解、御協力をお願いしたい。</p>
3	<p>(1) 再編成することは大事な事だと思う。市内の小中学校は老朽化が進んでいて耐震補強した学校もあるが、そのような学校を利用するのか。防災などもどうなるのか。</p>	<p>（総務部長）跡地利用については、残った施設は避難所として指定されているのだが、最終的には施設を持たないで処分することを考えている。しかし、そうは言ってもすぐに処分できないので、施設が存在しているうちは、避難所等の機能を持ちつつ管理をしていくというのが、市が考えた利用である。</p>

<p>(2) 最終的には施設を持たないというの、どういう意味か。</p> <p>(3) 市の立場では、再編成が必要になってくることは分かった。維持していくための経費は、税金で賄うということが出てくると思うので、例えば有効活用できるよう、市民だけでなく市外の方でも使えるような施設を作ったり、そういうことをしないとお金がかかってくるので、何か考えてもらった方がいいのではないかと思う。</p>	<p>(総務部長) 市内の小中学校施設は、構造体についてはすべてが耐震補強を完了している。その他の部分、例えば水回りの設備は交換していく必要があり、その時期が、今後10年から20年で必ず回ってくる。再編成をすれば、施設数が少なくなる分、投資しなくて済むので、残った施設の維持費に回せるということである。建物自体は、地震にも十分耐えられるので、そういった意味では避難所等に使えると考えている。</p> <p>(財政課長) 学校以外にも市が所有する色々な建物や土地がある。御意見の通り、今後市にとって有意義になるような形で、廃校になった学校などについては、有効活用できるように検討しながら、その後の使い方を決めて行きたい。</p>
---	---

開催日	令和4年1月27日(木)	
会 場	新郷第二小学校体育館	
	質 疑	応 答
1 ①	<p>(1) まん延防止等重点措置が実施されているのに説明会を開催するのはなぜか。急がなくてはいけない理由を教えて欲しい。</p> <p>(2) このような状況の中、開催するのはおかしいのではないか。前回の説明会と比べて参加者が少ないが、中にはコロナ感染が怖いから出席していない人がいると思う。1ヶ月待っ</p>	<p>(教育総務課長) 感染防止対策を十分に行って開催している。基本方針(案)を一部変更し、速やかに皆さんにお知らせする必要があると考え、開催した。</p> <p>(教育総務課長) 参加できない方などに対しては、動画配信で説明会と同じ内容を視聴することもできる。市としては、感染対策を講じた上で、皆さんと直接お会いしてお話を伺い</p>

	<p>てもよかったのではないか。</p>	<p>たいと考え開催したので、御理解いただきたい。</p>
<p>②</p>	<p>(1) 小学校が無くなった場合、地域に及ぼす影響は考えているのか。また、地域活性化を考えているのか。羽生市は過疎化対策を考えているのか、その中に学校を残すという選択肢はないのか。</p> <p>(2) 検討するという事は、どこまでか。学校を残す選択肢もあるということか、それはないということか。</p>	<p>(教育総務課長) 人口減少対策、地域の活性化対策は現在も行われている。また、学校が無くなることについても、これから再検討をしていくことになる。その中でどのようなことができるか、行政だけで考えるのではなく、皆さんと知恵を出し合いながら検討していきたい。</p> <p>(教育総務課長) 一度白紙に戻し、ゼロベースから検討するという事で、あらゆる選択肢を考えて、その後どうなるかということである。</p>
<p>③</p>	<p>(1) スクールバスの説明が最後にあったが、まだ案なので人数までは考えてないと思う。大型バスではなく、マイクロバス程度の車両で送迎になると思うのだが、その場合、1地区1台で回すのか。児童が同じ時間に登校できるように、7、8年後には70から80人の人数になるので3、4台必要になると思う。川俣小から羽生北小は近いので歩いて通えると思うが、新郷第一小や三田ヶ谷小、村君小の中で、三田ヶ谷小は乗り切らないような気がする。その場合、10台くらいは必要になると思うのだが、運営費はどのくらいになるのかという試算まではしていないのか。</p> <p>(2) 4台で2,900万円だと10台で1億円近くかかるので、その話が具体的になった時に、1億もかかるなら辞める、ということにはならないか。</p>	<p>(教育総務課長) どのように運行するか、台数についても決まっていないため、まだ試算はしていないが、他の自治体の例としては、川島町ではバス4台で2,900万円とのことである。これが羽生市に当てはまるものではないが、運行費用も考えながら、子どもたちが学校まで安全に通うために、どのようにすればいいかを、再編成準備委員会の中で、詳細を決めて行くことになる。</p> <p>(教育総務課長) 再編成によって、削減される経費もある。子どもたちのために環境を整えるために行っていくことであるため、補助金など、使えるものは使いながら運営していくと考えている。</p>

	<p>④ (1) 廃校になった場合に、既に大規模改修工事をしているため、建物はあと 30 年、40 年はもつと聞いている。校舎は避難場所に使うとか、体育館は地域の方にスポーツをしてもらうとか、そういう形で維持をしていくと思う。電気代、水道代などの費用、また先生をこの学校から別の学校に回すということか。</p> <p>(2) 老朽化して維持費がかかるとのことだが、残った校舎を使い続けるのであれば、再編成を行う理由の中に入れるのはおかしい。</p>	<p>(教育総務課長) 学校数が減った分の経費を再編成した学校に投資できることになる。</p>
2	<p>(1) なぜ案を示す前に試算しないのか。この学校が廃校になると前回の説明会で聞いて、それを白紙にしたと説明を受けたが、この先も色々話し合いをした結果、また白紙するという事にならないか。</p> <p>(2) その検討をしてから説明するのが当たり前なのではないか。</p> <p>(3) 基本方針(案)を示したのに、なぜ白紙撤回になるのか。</p> <p>(4) 検討が甘かったということではないか。</p>	<p>(教育総務課長) 色々な意見等を踏まえて再検討するという事である。</p> <p>(教育総務課長) 令和3年4月に当初の基本方針(案)を示し、それから変更になったところを今回説明している。</p> <p>(教育総務課長) 前回、案を示した時に、色々御意見をいただいたからである。</p> <p>(教育総務課長) 御理解をいただけなかったということである。</p>
3	<p>① (1) この再編成案で最終的に決定をするのは、誰なのか。</p> <p>(2) 例えば住民投票であったり、皆の意見が反映されるような形で最終的な決定がされるという考えはない</p>	<p>(教育総務課長) 最終的には教育委員会で決定をする。</p> <p>(教育総務課長) 色々な方の意見を聞きながら、最終的に教育委員会で決めるということである。決定する</p>

	のか。	までにアンケートを実施したり、様々な形で意見を聞いていく。
②	<p>(1) 施設の老朽化の話があったが、結局災害が起こった時に使えるような施設として残していただけることが一番だと思っている。もし、この学校が廃校になった場合に、死んでしまった小学校という位置付けになってしまうと、すぐに活用ができないのではないかという懸念がある。児童が通っていれば当然修繕等もして維持していかなければならないと思うが、予算をうまく割いていただき、学校を残していただきたいという思いがある。</p> <p>(2) ぜひ住民の意見を聞いて検討していただきたい。</p>	<p>(企画財務部長) 現在は、学校のあり方についてまっさらであり、今後学校のあり方が定まっていく中で、地域としてどのような形で利用していくかを含め、これから考えなければいけないのかなと思っている。市としても、防災のことも考えなければならないと思うので、皆様と対話しながら進めていきたい。ゼロベースから(西中学校区・南中学校区の検討を)進めて行くということで御理解いただきたい。</p>
4	① (1) 小規模校のデメリットについて、体育の授業が集団でなければならないということはないと思う。鉄棒やかけっこにしても、ほとんど個人競技であり、個人に対して適切な指導が大人数でできるのか。音楽の合唱も7人の学級と40人の学級とは、ほとんど同じ。望ましい学級数の維持として1学年2学級以上ということでも、1学級の定員数は変わるので、その点をもう少し考えていただきたい。	<p>(学校教育課長) 未来の子どもたちにどのような教育環境を整えてあげるかということが大枠である。もちろん小規模校のメリットがたくさんあるが、今回、適正規模・適正配置を考えた時に、1学年2学級以上、つまり学年が変わるごとにクラス替えができることによるメリットを重視している。クラス替えができる、あるいは一定の人数がいれば、体育にしても音楽の合唱にしても、子どもたちの特性や個性に触れることができる。個人で行う競技もあるが、体育ではチームを組んでより切磋琢磨できるような学習形態ができたり、合唱でも色々なパートに分かれたり、色々な楽器に触れることもできたり、そういったメリットも考えられると思う。</p> <p>少人数の学習を行う場合も、ある一</p>



	<p>(2) 体育の中でチームを作ってやることは少なく、ほとんどが個人である。</p>	<p>定の人数があった方が、より多様な考えに触れることができ、将来子どもたちが大人になった時に、そうした対応力も小学校の時から学ぶことができるのではないかと考えている。</p> <p>(学校教育課長) 現在体育の学習は、汗をかいて思いきり体を動かすということが大きな目標であるけれども、学びということを捉えて、対話的な学習を展開している。そうした意味では、体を動かしたり記録を伸ばしたりすることと同様に、多様な考え方に触れるということにおいては、ある一定の人数が必要なのではないかと思う。</p>
<p>②</p>	<p>(1) 小中一貫校は施設分離型で意味があるのか。小学校の卒業が無くなることを、どう考えているのか。</p> <p>(2) 小中一貫校の件では、中学校の先生が小学校へ行くとのことであったが、今までの経験で小中交流事業は、なかなかうまくいかない。また、中一ギャップの話があったが、その事例がどのくらいあるのか。</p>	<p>(学校教育課長) 小中一貫校については、9年間の教育課程を一つと捉えることとしている。小学校6年間、中学校3年間が義務教育とされており、今後学習指導要領等変わることがあるかもしれないが、9年間の系統性を考えている。既存の学校施設の状況により施設分離型の小中一貫教育になってしまうが、中学校の先生が小学校に来たり、小学校の先生が中学校へ行って見届けたり、また、それぞれの教員の特性に合わせた、より豊かな教育ができる。そういったメリットを重視したものである。</p> <p>(学校教育課長) 小学校と中学校の交流については、学校教育課に課せられた課題であると考えている。現在は授業改善、教員の授業力の向上等に取り組んでいる。課題を、一つ一つ解決しながら、未来の子どもたちのよりよい教育環境を整えていきた</p>

		<p>いと考えている。</p> <p>中一ギャップについては、中学校3校それぞれ20名程度の長期欠席の生徒がいる。これが多いか少ないかというのは、この多様化された社会の中で捉え方の違いがあるかと思うが、やはり中学校に入った時に、色々なことで精神的に不安定になり、学校に通えなくなるということがあるのは確かである。それが中一ギャップに該当するかは精査しないと分からないが、そのような現状である。</p>
5	<p>学校適正規模・適正配置と地域を残すということは、相反するものである。</p> <p>新郷第一小学校区、新郷第二小学校を自転車で回ってみた。新郷第二小学校区内では、住宅地のミニ開発が進んでおり、地域の人口を増やそうとする動きがある。学校がある、病院がある、お医者さんがいる、買い物が便利、そういうことで開発が進んでいる。そして、新郷第二小学校の児童数も増えている。新郷第一小学校区でもミニ開発が何ヶ所かで進んでいる。学校という地域の核、拠点が無くなることによって、人口が減少して地域が滅亡していくわけである。これは市にとっても税収の減少につながる。税により様々な住みよい社会を創ることができるわけだが、企業を誘致しても、人がいなければ地域は消えていく。そういった意味でも、今日は市長部局の方も出席しているが、地域住民の福祉を向上していくことが大事だと思う。</p>	<p>（企画財務部長）子どもたちが大きくなった羽生市の未来、市全体を見てこれをどう考えるかが一番大事なのではないかと思う。今回の学校適正規模・適正配置については、児童生徒数が減少する中で、子どもたちの多様性の観点から、教育環境を維持し、向上させていくための重要な取組としている。</p> <p>新郷地区の人口増加という話があったが、人口が増えるということは、羽生市の活力のためにも非常に重要である。人口減少対策については、羽生市に住んでいただいたからには、商業施設の利便性、住宅の受け皿、働く場所の確保に一生懸命取り組んでいく必要があると考えている。</p> <p>しかしながら、全国的な状況として、少子化の流れは避けられない。羽生市が努力をしても、羽生市だけ人口が増加するようなシナリオを想定するというのは、非常に難しい。だからと言って学校適正規模・適正配置に直結させるということではなく。人口減少が避けられない中で、今の子どもたち、そしてその子どもたち</p>

		<p>が大きくなった時のことを考え、当初の案が白紙になったことをしっかり伝えさせていただいた上で、今後3年間をかけてもう一度、地域にとっても子どもたちにとってもどうすれば良いかを考えていかなければならないと思っている。</p>
6	<p>自分の子どもは、この小学校に通うと思っていたので、計画は白紙になったが、今後も学校を残して欲しい。</p> <p>児童が減っていくのであれば、児童を集めていくしかないと思っている。少人数のデメリットをメリットとして、逆に生かして、少人数ならではの細やかな教育、ICT、IT、AIなどを活用して、一人一人の電子データを作って小学校6年間、中学校3年間を共有して役立てる。そのデータを先生や保護者が活用して子どもたちの朝の状態を見守る。名札の中にICチップを搭載して、登校、下校を確認できれば、保護者も安心である。ITを活用した新郷第二小モデルのようなものを構築し、取組の情報を拡散するなど、人を集める方法を考えていただければと思う。</p>	<p>(学校教育課長) 子どもたちが安全に学校に通い、保護者が安心していただけるような学校づくりが求められていると思う。ICTの活用、情報のクラウド化などについて、今後の検討材料としていきたい。そういったことが、教職員の働き方改革にも繋がるので、より良い情報活用の仕方を考えていきたい。</p>
7	<p>計画を白紙に戻して今後新たな審議会を立ち上げるとのことだが、委員の中に教員が入るのか。オブザーバーなら良いだろうが、イエスマンを入れるのは、やめていただきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 審議会の委員について、どのような人選が良いかは今後検討していく。</p>
8	<p>通学路については、安全が確保できるか。市内の道路は、歩道が無い、横断歩道が無いなど危険な所が多いので、スクールバスのことだけでなく、歩く道も安全にしていきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 通学路の安全は、大変重要なことである。学校で日常の通学路点検を行っており、5年に一度、通学路総点検も行われている。八街市の事故の件もあるので、羽生市も通学路対策を行っている。今後、学</p>

		校再編成を検討していく中で、どう いう形になるか現時点では分からない が、羽生市として通学路の安全確保 を進めていく。
--	--	--

開催日	令和4年1月28日(金)
会場	羽生南小学校体育館

質 疑		応 答
1	<p>説明はおおむね理解できた。私が13、14年前に羽生市教育委員会に在籍していた時に、既に頭の中に考えがあった。当時はまだ大丈夫だったがこの先はだめになる。この先協議をして進めていかなければ、保護者、地域、市民の納得は得られないと思っていた。その後、異動になり、その話は実現しなかった。</p> <p>まず、ある程度適正な人数がいないと子どもたちの人格形成に支障が出るという話であったが、それは分かる。しかし、将来社会を生き抜いていく子どもたちが力を付けるのは、知育・徳育、まず知育である。知育がないとあらゆることを解決する知恵が出てこない。一番に学力、そして授業の中で問題解決能力、先生があたかも子どもが自分の力で問題を解いたかのように思わせる教育、これを展開することが大事である。他の子どもたちの考えを聞いて、納得したり、反対したりしながら、自分の考えを深めていくとあるが、それも大事だと思うのだが、まずは学力である。学力を深めるには、まずは少人数であることが一番である。</p> <p>本日の説明会では6人しか参加していないが、教育委員会はこのような状態で説明会をやった、市民に説</p>	<p>(教育総務課長) デメリットの話もあったが、小規模校のメリットを生かすにも限度があるということで、再編成をして一定の集団規模としてデメリットを解消できるよう考えている。</p> <p>(学校教育課長) 同じ施設でないと色々な制約があり、小中一貫教育の効果を十分発揮することができないという点は、おっしゃる通りである。今回は、既存の施設の中でできることを考え、このような案を示した。財政的な面もあり、既存の施設を有効に使い、小中一貫教育を進めていくという提案である。</p> <p>中一ギャップの解消や学びの連続性、小学校・中学校の交流、これは教員の交流も含まれている。小学生が中学校へ行ったり、中学生が小学校へ行ったり、子どもたちの交流をより活発にしていこうという案であり、そうしたことによって、長期欠席の生徒を減らすことができるのではないかということである。</p>

	<p>明したと言えるのか。ここに教育長が出席していないではないか。昨日、電話で教育長とお話ししたいと教育総務課に申し出たが、公務が忙しいとのことで断られた。市民ひとりに少しだけの時間を割くことができなくて、こんな大きな問題が解決できるのか。市長部局が出席してくれたことは大歓迎である。良いことばかり教育委員会は言っているが、デメリットをどうやって克服していくか、その方策が示されていない。</p> <p>施設分離型の小中一貫校で教育課程を9年間一貫して教育するとのことだが、施設が分離していたら小中ギャップは解消できない。あれは、学年が上にあがった時に感じるものである。小中一貫校と言いたいのなら、きちんと施設を揃えるべきだ。建物を建てて、全員収容できるようにしてから小中一貫校と言って欲しい。それなら納得する。</p> <p>新郷地区の方が反対していると噂で聞いた。他の地区の方も反対だと思う。しょうがないから反対と言わないだけだと思う。</p>	
2	<p>小中一貫のカリキュラムを作るといふことで、小中の子どもの交流、先生の交流を行うことは、とても大事なことだと思っているが、現状だと地域の方々が入るといふ発想が感じられなかった。やはり、何が現状を埋めるのかと考えた時、保護者を含めた地域の力が重要だと思う。</p> <p>(仮称)再編成準備委員会のイメージも示されたが、もう少し具体的に、地域が子どもを育てるカリキュラムなのか知りたい。例えば、地域でイベ</p>	<p>(教育総務課長) 計画の決定プロセスの件については、羽生市立適正規模審議会を立ち上げ、委員を保護者や地域住民などから選んで話し合いをしていく。その話し合いの過程で、色々な方の意見を聞きながら考え、西中学校区、南中学校区をどのようにするか検討していくことになる。その過程も情報公開しながら、皆さんと一緒に考えていこうと思っている。</p>

ントが開かれているという時に、「近所の〇〇さん呼びましたよ」というのでは、本当に地域に開かれている感じには思わない。私は学校のすぐそばに住んでいるが、先生達は今日も忙しいのだろうな、こういう行事があるから子どもたちは頑張っているな、子どもたちが頑張っているからちょっと覗いてみようかな、など、地域の人に関心をもてるような運営をしていかないと、と思う。そのためには、羽生南小の子どもたちが西中に通う案は疑問だったが、白紙に戻すことになってありがたかった。白紙に戻した後、計画が決まるまでのプロセスは、結果が決まってから、やり方を皆で話しましょうという気がしたのだが、それで良いのか。その前に、市民や地域など色々な意見をもっているのです、そういう方々の意見をどうやって吸い上げていただけなのか、ニーズがどこにあるのか、小中一貫校にしたところで魅力がなければ、小学校、中学校に入学する時に市外へ出て行ってしまわないか。私立の学校にも通える範囲なのだから。

小中一貫校になった時、地域のコミュニティや防災の拠点となる学校は、すぐそばでないと拠点にならない。数字に拘ってしまうと、地域のコミュニティにも影響することであるから、その辺りを真摯に皆で考えていくようお願いしたい。

通学の安全を確保するために、スクールバスを運行するという事については、なるほどと思った。しかし、下校した後に友達と遊ぶ時にス

(学校教育課長) 保護者の力、地域の力がないと学校を到底運営することはできない。学校は教員だけの力だけで運営できるものではない。このことは絶対に見失わず、真剣に考えていかなければ学校の再編成、適正規模・適正配置は成すことができないと思う。前の質問者の話にあったように、13年、14年も前から、このようなことを考えておられたということは、本当に素晴らしいことである。それを今見送ってしまうと、将来の子どもたちのためによりよい教育環境を整えることは、いつやるのだということになってしまう。それを迫られている時期にきていると思う。だからこそ、本当に真剣に考えていかないといけないと思う。地域の力を貸していただき、皆で知恵を出し合っていないと、本当に良い学校をつくることはできないため、市民の皆さんと一緒に考えていきたい。

現在の教育の中では、主体的、対話的で深い学びということで、子どもたちが課題に対して色々な意見を集約して、色々な意見を尊重して、ひとつの考え方を導きだしていく「学び合い」を行っている。そうした新しい教育観の中で、これまでは知識を詰め込んでいく学びであったが、今後は子どもたちを主体的に学び、社会に出ても通用するように育成する小中一貫校、義務教育学校をつくっていきたいと考えている。その中で、様々な交流をすることで選択肢が増えていくため、そのような教育を望んでいる。

	<p>クールバスでの送迎は無く、家に一旦帰った後は保護者の責任だと思うが、家から遠い友達が家に遊びに行った時、事故にあったら保護者の責任と言われても気持ちは割り切れないと思う。そこはどう考えるのか。</p> <p>小中一貫校が目指す児童像・生徒像はどのようなものか。</p>	
3	<p>(1) 羽生市全体で考えていかなければならないと思う。財政支援が無ければできないと思う。</p> <p>私は、知育だけでなく学力を高めていくという趣旨で、教員を増やしたりしながら、それでもだめなら再編成をしなければならぬという結論まで出していた。ここまでさらけ出して市民の方をお願いをしたいと考えていた。ぜひお願いしたいのは、先生の指導力、掌の大きい先生を育てること。子どもたちは先生の掌で踊る。小さい掌では踊れず、落ちてしまう。</p> <p>小学校、中学校の交流と言っているが、無理である。最低限の交流はできても、それ以上は難しいと思う。だから、小学生と中学生が同じ校舎で学ぶしかない。一緒にいれば互いが見えるから、昼休みに一緒に遊ぶこともできるし、もちろん、あまり良くない上下関係も友人関係もできる。そこで人間というものが作られてくる。教室の中だけではない。</p> <p>教育に38年携わってきて、掌から落としてしまった子どもたちがかわいそうで悔やまれる。自分の不甲斐なさに反省をしているわけである。市長部局をお願いして何とか学校づくりをしていただきたいなと思い、</p>	<p>(財政課長) 財政部局としては、メリハリをつけた財政支援という形で教育委員会と協議をしながら、必要な支援をしたいと考えている。その際には、今後再編成等で削減できた予算は、優先的に教育施設の維持費に充てるなど、その時の市全体のバランスの中で、教育費というものを考え対応していきたい。</p>

	<p>今日は参加した。</p> <p>(2) 市が無駄にお金を使っているとは言わないが、市にかかわっている名誉職がたくさんいる。そういう方々が実はたくさんお金をいただいているのだが、そういう方々が気付かないといけない。自治会長は関わる戸数によって手当が違う。そういう人たちが市や地域に奉仕する、そういう気持ちが出てこない限り、学校再編成は失敗に終わる。ぜひ皆で羽生を考えていきたい。私も応援している。</p>	<p>(総務部長) 羽生市全体で考えていくという気持ちでいるので、ありがたいとお気持ちを受けたと思う。</p>
4	<p>① 施設分離型の小中一貫校を経ずに、一気に施設一体型の義務教育学校にすることはできないのか。</p> <p>② 三田ヶ谷小や村君小のように少人数になり、このままではいけないということで地域の理解が得られるのなら良いが、児童数 100 人前後の学校は、このままで良いのではないかと思う。</p> <p>③ 施設一体型の義務教育学校の設置は、「将来」という表現をしているだけであって、どのくらいの期間で実</p>	<p>(教育総務課長) 既存の校舎のキャパシティの問題があり、現在の中学校にその中学校区すべての小学生を収容することは無理な状態である。将来的には、現在の中学校 3 校に、小学校から中学校まで通うという計画ではあるが、そこに至るまでには施設規模の面からも、分離型でないとできないという状況である。児童生徒数の推移や校舎の建て替えの時期などを勘案して、最終的には義務教育学校で全学年と一緒に学ぶという案である。</p> <p>(教育総務課長) 現在、児童数 100 人程度の規模の学校でも十分であると思うことも分かる。しかし、将来的にはどの学校も人数が減っていくので、将来の子どもの教育環境を整えるためには、今のうちから考えておく必要があるということで、再編成を計画している。</p> <p>(教育総務課長) 義務教育学校設置の時期については、今の時点では申し上げられない。2045 年までの児童</p>



	<p>施していくのかははっきり分からない。施設一体型とするまでの期間が短くなるほど、その間に再編成を行うことに疑問が生じる。</p>	<p>生徒数の推計ができるが、その先は見えていない状況である。現在の中学校施設の建て替え時期として、建物が寿命を迎える 2050 年代後半あたりを期限として義務教育学校を設置することをひとつの目安としている。そこに至る前までに、児童生徒数が予想以上に減ってしまうなど色々な状況があり、義務教育学校を設置するということがあるかもしれないが、それがいつになるかは現時点では想定できていない。</p>
5	<p>(1) 将来的ということであれば、条件が整った時点で小中一貫校（義務教育学校）を設置すれば良いのではないか。それまでは、財政支援を受ければ良い。</p> <p>(2) はっきりしない見通しで、再編成を行うことは難しいのではないか。見通しをはっきりさせて、再編成の予算的などころも整えて、そうしてから実施してくれないと、保護者の方々も不安である。</p> <p>(3) 2050 年代と言ったが、その時に小中一貫校ができるように考えるということか。</p> <p>(4) 言っていることは分かる。小中一貫校と言っているけれども、施設が分離している形態では、一貫にはならないのではないか。</p>	<p>（教育総務課長）メリハリのある財政支援を受けながら、こちらとしても一緒になって考えていくということである。</p> <p>（教育総務課長）義務教育学校設置時期のひとつの目安としては、中学校 3 校の校舎の寿命である 2050 年代後半あたりとしている。それまでに、社会情勢や児童生徒数の状況などを踏まえて考えるということになる。</p> <p>（教育総務課長）この基本方針（案）に掲げる教育のビジョンとして、義務教育学校で 9 年間の一貫教育を行うことあって、そこに至る過程で小学校の再編成を行うということである。</p> <p>（学校教育課長）施設一体型の小中一貫校よりも制約がある。これから求められる教育として、子どもたちの交流、教員の交流を進める。教員のメリットとしては、その教員の特性を色々な子どもに還元できるように</p>

		(5) 言いたいことは分かった。なかなか難しいと思うが、頑張っ て進めて欲しい。	なるということである。さらに地域の力を工夫して取り入れていきたい。  (学校教育課長) 教育委員会も学校をサポートしながら進めていきたい。
6		学校選択制を実施することは可能か。	(学校教育課長) 原則、指定された学区に通うこととなっている。選択制をとると、学校ごとに偏りが出てしまう懸念がある。
7		再編成を行う前に、学区の見直しや、児童生徒数の見直しなどをして、一番近い学校に通わせてあげても良いのではないかと思う。羽生市が将来的に他の市と合併するのではないかという噂を聞いたことがある。将来的に施設一体型にするまでの過程として施設分離型の再編成を実施し、直後に他の市と合併して学校編成の見直しとなった時に、再編成が無駄になるのではないか。	(教育総務課長) 学区の変更は、地域、自治会との関係もあり、すぐに実施することは難しい。  義務教育学校設置の具体的な時期については、現時点で申し上げられない。「将来」という形で進めて行く。社会環境の変化に応じて随時見直しをしていくこととしているので、今後、社会情勢、財政状況を踏まえて、皆さんと一緒に考えながら方針を作っていけたらと思っている。
8		このような説明会は非常に大切だと思う。これから審議が進んでいくにつれて内容が固まってくる所もあるし、変化してくる所もあると思う。その進捗状況を逐一教えて欲しい。年に1回は、このような会を開いて欲しい。広報やインターネットでは全員には伝わらない。皆に伝わるような手立てをお願いしたい。	(教育総務課長) これからも情報提供に努めていく。

開催日	令和4年1月30日(日)	
会場	ワークヒルズ羽生大会議室	
	質 疑	応 答
1	① 大変な仕事だなと思って聞いていた。計画が一部白紙になった背景で、ホームページも見たが、一言で言う	(教育総務課長) 計画の一部を白紙に戻した背景であるが、当初の案は、西、南中学校区において、新郷第一小

と利害関係があつて大変なのだろうと思つた。現在、市で考えている課題、対策のアイデアはあるか。世代間ギャップ、現場の先生方の意見をどのように吸い上げられるかが、これから大事になってくると思つた。

と岩瀬小が再編成して南中に行く、新郷第二小と須影小を再編成する、川俣小と羽生北小が再編成するという計画であつた。この案について、新郷地区の方から多くの反対意見をいただいた。地域に小学校が無くなってしまうこと、通学区が変わってしまうことなどに反対があり、保護者アンケートを行ったところ、6割近くが反対という結果であつた。このまま反対意見を押切つて進めてしまうことはできないと判断し、羽生市立学校適正規模審議会でも再検討し、今回の案に至つた。

一旦白紙に戻すこととなり、現時点では次の案を持ち合わせてはいないが、今後新たに審議会を立ち上げ再検討する中で、一緒に考えていければと思つている。しかし、再編成が必要という考えは変わっていないので、その中でどのような形が良いかを考えていきたい。現場の先生方の意見についても、合わせて伺っていきたい。

(学校教育課長) 市内の学校の現状、課題をお話しする。現在、中学校3校それぞれに、20人前後の長期欠席の生徒がいる。長期欠席の生徒たちそれぞれに課題があるが、それぞれが目標をもって過ごしている。

少人数の小学校では、非常に学力の伸びがある。少人数だからこそそのメリットもあるが、今回の提案は、バランスのとれた人間性を育成するために、学年ごとに複数の学級があれば、クラス替えもでき多様な人柄に触れることによりバランスのとれた

		<p>人間性の育成につながると考えている。また、一定の規模の学校とすることで、教員数もある程度確保できる。約40年前に中学校が再編成されて3校になったが、その時も生徒数が増えたため、多くの部活動が設定できたり、バランスのとれた教員集団が確保できた。教員数が多くなれば、それぞれの特色を生かして、多様な子どもたちに還元できるといったメリットもある。</p>
②	<p>羽生市全体のまちづくりと言っていたが、まちづくりには、子どもが住みやすい、学校へ行きやすいというのはとても重要な事であり、市も重要視して考えているのだなど説明を聞いて感じた。通学については、スクールバス以外のアイデアはあるのか。自転車の補助を出すとか、実際にやってみないと分からないが。</p>	<p>(教育総務課長) 子どもが住みやすいまちづくりについては、現在も各学校で特色ある学校づくりに取り組んでいるが、それを継続したり発展させたりして、魅力のある学校をつくり、再編成したら良い学校ができたと言われるように、皆様と共に学校づくりを進めていきたいと思っている。</p> <p>スクールバスについては、現時点で遠距離から通う児童はスクールバスに乗ることを考えているが、検討していく中で色々な意見があると思うので、どのようにしたら良いかということを考えていければと思う。</p>
③	<p>紙の資料を見ながらの説明であったが、プロジェクターなどで映しながらの説明の方が、聞いていて分かりやすいのではないかと思った。</p> <p>他の自治体の事例など、参考にしたいものがあれば教えていただきたい。</p>	<p>(教育総務課長) 他市の事例については、春日部市では平成31年に義務教育学校が開校している。栃木県小山市にも義務教育学校がある。川島町や行田市などでも、学校の再編成を進めているので、そのような事例を参考にし、紹介しながら進めていきたい。</p> <p>プロジェクターなどを使った説明については、今後考えていきたい。</p>
2	<p>(1) 新郷地区から反対があったとのことであった。自分たち、親世代、</p>	<p>(企画財務部長) まちづくりをする上では、人口が増えていくことが非</p>

祖父・祖母の世代と、羽生市に住み、幼稚園から高校までの学生生活を送ってきている。今の時代になると、子どもの人数も変わってきて、学校の再編成をすることには賛成だが、家を建てたりする場合、保育園や小学校はどこに通うかということも含め、場所を決めることになる。市外から仕事の都合で羽生市に引っ越しをしてくる方はたくさんいると思う。今までは、羽生駅近辺が栄えていたものが、イオンモールができて以降、南の方の地域が栄えてきて、その人口が増えてきた。生活の基盤となる場所が変わってきて、小学校の児童数もかつては羽生南小や羽生北小が多かったが、最近では須影小が多くなっているなど、変化してきている。学校ごとの人数のバラつきが極端に出てくるということで、再編成に至っていると思う。

どこの県でも再編成を行っているところはあると思うが、決まったらそれに従うしかない。持ち家の人もアパートに住んでいる人も、どこの学校に行くのか、それを最初にある程度考えた上で生活をしていたはずである。この区域は西中、ここは東中、ここは南中に通うというベースは、羽生市に住んでいる方にとっては、基本的に崩さないということが希望だと思う。どの小学校とどの小学校を再編成するというのは、もともとある中学校区の中で組み合わせることを検討していった方が、市民からの声がだいぶ緩和されると思う。そこを何故、区域を変えるのだろうか。今まで岩瀬小は半分が西中、半分

常に大事である。子育て世代に羽生市を選んで住んでいただくことは、地域の活性化のためにも非常に重要なことだと思っている。

羽生市に住んでみたいと思ってもらうには、買い物などの利便性、住宅を建てられる場所、働く場所、この3つの要件が基本であると考えている。また、子育て応援のための政策として、インフルエンザ接種費用、子ども医療費の助成なども行っている。このような政策に取り組んでいるが、この政策の効果がどこまで波及しているかということ、先程、現在は南の方が栄えているとおっしゃっていたように、なかなか羽生市全域とまでは及んでいない。そのような状況の中に、若い世代の居住地のバラつきが出てきているのかと思う。

今後も全国的に人口減少は避けられない見込みであり、羽生市においてもある一定の地区では増加傾向にあるのかもしれないが、羽生市の人口だけが増加するようなシナリオはなかなか描けない。やはり人口が減り、子どもたちが減っていくことがある程度予測される中で、何をしなければならぬのかを考えて行かなければならないと思う。市長部局としても、今回の学校再編成の計画をつくっていく中で、大事な視点というのが、今学校に通っている子どもたち、将来学校に通う子どもたち、学校に通っていた子どもたちが大きくなった時の羽生市の将来を踏まえて考えていかなければならないと思っている。

今回の学校適正規模・適正配置は、

が南中に進学するとしてきたものが、全部が南中学校区になると、南中ばかりが生徒数が増えてしまい、西中の方が近いのに通えないという状況になる。

羽生市が子どもたちに良い教育をするために、小中一貫校を設置したり、再編成を考えることが大前提であるが、こういう所を重点に羽生市は取り組んでいます、こういう所が羽生市の魅力です、というところが、普段から感じられない。急に再編成をされると言われても、羽生市は特に魅力もないと思っている人もいますと思う。

再編成は大変なことだから、色々な候補が挙がって最初の案を出したと思うが、そもそも案を作った基準が住んでいる方の気持ちを汲んだものであったか。住民たちもかつては地元の学校に通っていたわけだから、多少長い距離を歩いていた、中学校へは自転車に乗って通っていた。それは、わざわざ変える必要はないと思う。中学校の場所へは学区を変えなければ、行けないわけがない。小学校に関しては、再編成した結果、今まですぐ近くにあった学校が無くなってしまうので、歩く距離がすごく遠くなる。中学生になれば体もできてくるし、自転車に乗れるから、ある程度は心配ない。

小学校の6年間は長いから、どこかのタイミングで再編成するのであれば、もちろんそれに従うしかないのだが、この6年間でいかに上手に通わせてあげられるかということが重要なのではないか。学校まで歩け

児童生徒数が減少する中で、子どもたちへの教育的観点及び教育環境の維持もしくは向上に向けた取組であると思っており、そのためには、どのような方策が良いのかという視点で考えていくと、ひとつひとつ着実に道筋を示していかないといけないのではないかと思う。突然、適正規模・適正配置を実施するということはできないので、5年後、10年後といった将来を見通した中で、皆さんに今後の取組をお知らせさせていただき、道筋ができることによって、状況に合わせた対応ができると思う。市長部局として財政的な観点はありますが、それとは別に子どもたちの未来、また、子どもたちが将来親になった時のことを見据えて進めていきたいと考えている。

(教育総務課長) 学区が変わるということは大きなことだということは承知している。今後の学校の再編成を考えていく中で、そういった御意見をしっかり聞いて再検討していきたい。

義務教育9年間の取組ということで、再編成が子どもたちの不利益にならないよう、皆様から御意見をいただきながら、一緒に考えて行ければと思っているので、引き続き御協力いただければ幸いです。

る、歩けないではなくて、この学校とこの学校を再編成すれば、上手くまわるということを念頭に考えてあげた方が良いのではと思う。

人数が少なくて運動会の種目が少なくなり、午前中で終わりになるのは、確かに寂しい。人数が増えることによって、学校らしく見せることはできるけれども、住民に対する配慮として、距離ももちろん大事だが、今まで羽生市にずっと住んでいて、これからも住み続ける人たちが、多く残ってくれるような市を目指した方が、昔からいる人たちも含めて、丸くおさまるのではと思う。

なかなかうまくいかないが、うまくいくように時間を設けて、意見を聞いて取り組んでいると思うが、私たちにとっては、学区が変わることは凄く大変な事である。自分たちではなく子どもたちが学校に通うわけだから心配であるし、また、子どもたちが大きくなった時に、再びこういう問題が出てくるかもしれないから、その時にも対応できるように、今ここで再編成をするのだと思う。

小学校を上手に一つにするのであれば、新たに建設して、今まで建っているものは壊すといった取組をしてもらった方が、「考えているね」と感じる。学校跡地を更地にして家を建てられるようにすれば、人口を増やして市の財源を増やし、活性化に繋げるという見せ方もできると思う。そのためには、再編成をする学校の組み合わせを先に考えなければならぬと思うが、中学校区はなるべく変えないで欲しいという気持ちであ

	<p>る。</p> <p>(2) そもそも何故、新郷第一小は岩瀬小と再編成する案となったのか、発端は何か。</p> <p>(3) 現に新郷第二小は南中学校に通っているし、新郷第一小は西中学校に通っている。小学校の距離感が違う。それを一つだと考えることはおかしい。</p>	<p>(教育総務課長) 当初は、新郷第一小と新郷第二小は違う中学校に通っているが、同じ新郷地区として一つだという考えがあった。</p> <p>(教育総務課長) 最初はそのような考えであったが、実際は中学校が分かれていても支障ないという状況が分かったので、改めて再検討することにしたという経緯である。</p>
3	<p>羽生市の中学校はかつて 8 校あったが、昭和 50 年代に 3 校に統廃合しており、他の市より早く進み成功したと思う。問題は、小学校の統廃合であり、前回の案も非常に立派な内容だったと思うので、通れば理想的であった。東中学校区については、当初の案のとおりとのことだが、西、南中学校区の組み合わせの問題があって、新郷地区から反対の話が出たと聞いた。一方的に押し付けるのも非常に問題であるから、再検討をするということは非常に結構なことだと思う。現時点での教育委員会当局としての腹案というものは何かあるか。</p>	<p>(教育総務課長) 現時点では、教育委員会は案をもち合わせていない。白紙に戻すことにしたので、ゼロベースから色々な御意見を伺い、案を作っていくということである。</p>
4	<p>当初の案を一部白紙に戻し、再検討するということが、今までの審議会は、昨年 11 月で解散したと聞いている。新しい審議委員会は、いつ頃発足して、そのメンバーはどのような形で選ばれるのか。</p>	<p>(教育総務課長) 新たな羽生市立学校適正規模審議会は、令和 4 年度中に発足したい。委員の選出方法は、現在のところ未定であるが、選出にあたっては慎重に検討していければと思っている。</p>
5	<p>説明を聞いていると、小規模校の欠点ばかり強調されているが、長所もたくさんある。羽生市は教育のレベルが埼玉県の中でもあまりよろしくなく、ワースト 5 に入ったことも</p>	<p>(学校教育課長) 学力向上に関しては、平成 27、28 年頃から県や、市の財政局など色々な方面から援助いただき、学力を高めていこうという取組を進めている。現在は、県の学力・</p>



	<p>あった。現在は、教育長が頑張っており、かなりレベルが上がってきていると聞いたのだが、まだまだである。その辺りに関して、どのような取組を行っているのか伺いたい。一般のサラリーマンが一番力を入れているものが、子どもたちの教育である。今、教育のレベルが下がっていると、国家試験とかいわゆる資格がもらえず、そういった資格によって人生が決まってきてしまう。当然それは学力ということになる。教育委員会が考える小中一貫校に関し、学力向上の展開を、できる範囲で教えていただきたい。</p>	<p>学習状況調査というのがあり、非公開ではあるが、県内の市町村の順位が出る。羽生市の学力は、確かに低い時期もあったが、現在では、小学校は県内でも上位になるような成績になってきている。中学校も、少しずつではあるが伸びてきており、小学校に追従していくことが見込まれている。</p> <p>羽生市の小中一貫教育では、今回の学校再編成の提案では、施設分離型の小中一貫校を考えている。これまでも小中一貫教育は行っていたが、中学校で中一ギャップが生じたり、長期欠席になっていたり、学力の問題もある。小学校と中学校の先生同士の交流、子ども同士の交流をより活発にすることによって、これらの課題が解決できると考える。全国的に行われている取組であるが、これを今回の適正規模・適正配置に合わせ、本市でも重点的に取り組んでいきたいという提案である。</p> <p>そういったところで、今回の適正規模・適正配置では、学力を伸ばすことはもちろん、小学校において2学級以上の学年を編成することによって、より多様な人間性のバランスの取れた教育、子どもたちの育成ができれば良いと考えている。</p>
6	<p>先程、計画を白紙に戻すが腹案はまだないということであった。白紙に戻すことは結構だと思うが、しかし、小学校の統廃合という目的があるので、皆さんの意見だけ伺って、その意見の通りということは、目的に向かっていけないので、当局の主体性は必要かと思う。</p>	<p>(教育総務課長) 将来の子どもたちにとってよりよい教育環境を整えるという目的がある。これは、変わらない。新たな審議会を立ち上げ、検討していくので、その中で、教育委員会の案という形で示していくことはあると思う。</p>

	<p>各地区の意見は意見として伺って、その中でいろいろ検討して目的に向かって行くことが必要であろうと思う。いずれは、教育委員会の腹案というものを出さなければ、まとまらないと思う。</p>	
7	<p>前回の説明会も参加して、私の気になる点を発言したところ、今回の資料に盛り込まれており、改善されているような感じがするので、とてもありがたい。</p> <p>井泉小・三田ヶ谷小・村君小の再編成による小学校のスクールバス運行イメージを見て、現在の小学校の始まる時間に登校が間に合うかが心配になった。現在は、時間に合わせてそれぞれの地区から子どもたちが徒歩で集まるから成り立っていると思う。おそらくスクールバスが運行されるのは、三田ヶ谷地区と村君地区から学校までの区間だと思うが、この地域の道路の状況を考えると、あまり大きなバスを運行することは難しく、10人乗り程度の大きさのバスになるのではないかと考えている。</p> <p>全員を同じ時間に学校へ到着させようとする、それなりの台数が必要になる。2回巡回する等の方法もあるかもしれないが、スクールバスの経費を考えると、時間をずらして学校の授業を始めるだとか、工夫してやっついていかないと、須影方面とか新郷方面で同じように費用がかかることになる。非常に高齢化が進んでおり、若い方が少ない市だと思っているので、ある程度の人数を一度に動かそうとしたときに、バスの運行にかかる経費が財政を非常に圧迫する</p>	<p>(教育総務課長) バスの運行については、具体的には今後決めていくことになるが、児童数、子どもたちの住んでいる場所、学校の始業時間なども踏まえて、どのような台数、ルートが一番効率的なのか、どのように費用がかからない方法とするかを考えて行ければと思う。他の自治体でも、スクールバスと市内循環バスを兼ねて運行している例もあるので、そのような事も参考にしながら、考えていきたい。</p> <p>また、再編成を進めて行く中で、閉校となった施設の維持管理や改修に係る費用で不要となったものをその他の教育に関することに投資していくなど、財政的にもより良い運行方法を考えていきたいと考えている。</p> <p>(学校教育課長) 学校のカリキュラムについては、確かにスクールバスの運行や遠い地域の子どもが歩いて通うことを考えると、時間的な制約があると捉えている。これまでの学校の活動と言えば、小学校では朝マラソン、朝自習をして1時間目の授業というイメージがあるが、今年は新型コロナウイルス感染防止対策の関係で、10分の休み時間を5分にしたり、清掃の時間を少なくしたりなどを実施した。休み時間を短くすることが良いかどうかはよく考える必</p>

	<p>のではないかと思います。</p> <p>個人的な見解であるが、最近イオンモール行きのバスなどが通る姿を見かけるが、スクールバスだけでなく高齢者も使えるものにするとか、学校だけに経費がかかりすぎないようにでき、羽生市の駅から離れている人などの生活もバックアップできたりするのではないかと思います。</p>	<p>要があるし、清掃を毎日してきたことが生活習慣に繋がっていたということもあるので、できる範囲で負担を少なくしながら、また子どもたちのバランスの取れた育成ができるように、今回の再編成の中でカリキュラムの編成の工夫もしていかなければならないと考えている。</p>
--	--	---

開催日	令和4年1月31日(月)	
会 場	羽生北小学校体育館	
	質 疑	応 答
1	<p>羽生北小と川俣小の再編成が白紙になり、令和4年度から令和6年度まで再検討するということだが、どのように動いていくのか。羽生北小は受け入れる側なので反対意見はあまりないと思うが、羽生北小と川俣小とを再編成するという方向性はもえないのか。</p>	<p>(教育総務課長) 来年度から再検討を進めていく。羽生市立学校適正規模審議会を新たに立ち上げ、皆さんの御意見を聞きながら進めていく。羽生北小と川俣小の再編成も色々な話し合いの中で、再びあるかもしれないと思うので、様々な可能性を踏まえて検討していきたい。</p>